

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和 元 年 7 月 5 日

評価対象事業		評価者	文化人権課担当課長 藤田 聡一郎	
共創-21	実施事業	川喜多映画記念館等管理運営事業 ☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務	主管課	文化人権課
	まち・ひと・しごと		関連課	
総合計画上の位置付け	分野	文化	施策の方針	文化活動の支援・推進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	映画や映像文化の発信拠点である川喜多映画記念館及び旧川喜多邸の別邸であった旧和辻邸の適正な管理運営を図るため。
効果	訪れた市民などが、川喜多夫妻の功績にふれながら、映画の資料や鎌倉の風情を楽しむことにより文化意識の醸成を図る。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

指定管理者による川喜多映画記念館等の効率的な管理運営を実施するとともに、施設の維持管理を行った。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度) 決算	30年度(2018年度) 決算	データ区分	01年度(2019年度) 当初予算	備 考
人口等のデータ	人 口	176,466人	人 口	176,436人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世 帯 数	81,150世帯	世 帯 数	82,444世帯	
	事業の対象者数	20,973人	事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	36,062	当初予算(千円)	37,295	
	国県支出金		国県支出金		
	地方債		地方債		
	その他	4	その他	3	
	一般財源	36,058	一般財源	37,292	
	人員配置数	0.7	人員配置数	0.7	
	人件費(千円)	5,289	人件費(千円)	5,470	
事業費運営	総事業費(千円)	41,351	総事業費(千円)	42,765	
	市民1人当りの経費(円)	234	市民1人当りの経費(円)	242	
	対象者1人当りの経費(円)	1,972	対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	1. ある
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済 ○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
		協働実施済の場合のパートナー 市民団体（不特定）

事業 内容の 方向性	☐ a:事業内容を見直す ⇒	見 直 し の 種 類	☐ 拡大	見 直 し の 内 容	
	☒ b:事業内容は現状通りとする		☐ 縮小		
	☐ c:事業を休止又は廃止する		☐ その他		
	☐ d:他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒			事業へ統合	
予算 規模の 方向性	☐ A:予算規模を拡大する	事業内容・予 算規模の方向 性設定の理由	引き続き、指定管理者と連携しながら効率的な管理運営と施設の適切な維持管理を行っていく。		
	☒ B:予算規模は現状維持とする				
	☐ C:予算規模を縮小する				

総評 (評価に対する考え方、根拠等)	効率性については、委託料削減の可能性があるため、「事業費の削減余地」は「ある」とした。 川喜多映画記念館は全国的に見ても数少ない映画文化の発信拠点である。また、旧和辻邸は景観重要建造物に指定され、春秋の一般公開の他、イベント等の会場として活用しており観覧の機会を提供している。 平成30年度の来館者数は前年度に比べ約6.7%増加した。「魅惑の映画ポスターデザイン」など好企画であった展示事業がマスコミ等で取り上げられたことで、施設の認知と周知が高まり、集客を伸ばす結果となった。このように企画を工夫することで、多くの集客を図ることができるなど改善する余地はあることから、「事業の成果は概ね出ているが、更なる努力が必要」とした。 市民等が企画段階から参加する事業を各年度実施し、市民団体等との協働に努めている。 引き続き、映画文化発信拠点として更なる事業の充実を図り、より多くの市民の方に利用してもらえるよう努めていく。
-----------------------	--

平成30年度(2018年度)事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	・来館者数が前年度(平成28年度)を下回ったことにより、安定した来館者数を維持するため、企画に対する周知、PRについて検討を行う必要がある。 ・次期の指定管理者選定に向けた募集内容を見直す必要がある。	
課題解決のために行った平成30年度(2018年度)の取組	・実際に映画で使用された小道具の展示及び館内での映画音楽のBGM放送や話題性のある映画上映を行うなど、来館を促す工夫を図るとともに、来館した際にも満足していただけるよう取り組んだ。 ・次期の指定管理者選定に向け、募集内容の見直しを進めた。	■ 解決 ☐ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	・安定した施設の運営を図るため、収益の向上を図る。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	来館者数					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
より多くの市民等に施設を利用してもらうため	目標値	24,050.0	25,000.0	25,000.0	25,000.0	25,000.0	25,000.0			
	実績値	23,675.0	27,125.0	27,382.0	20,973.0	22,385.0				
	達成率	98.4%	108.5%	109.5%	83.9%	89.5%				

指標の内容	施設利用満足度					単位	%	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	施設内アンケートで職員対応、展示内容、上映作品の選定、施設環境で大変満足、満足と回答した割合		
事業内容の質と施設環境の快適性を確認するため	目標値	-	-	-	80.0	80.0	80.0			
	実績値	-	-	-	78.3	77.5				
	達成率	-	-	-	97.9%	96.9%				

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	平成27(2015)及び平成28(2016)は、設定した目標値を上回る実績があったが、平成29(2017)以降は目標値に届いていない。良質な展示事業等となるよう企画を工夫するとともに、効果的な周知に努め、集客を図ることで目標値の達成を目指す。 施設利用満足度については、目標値とした80%をやや下回る値で推移しており、下落しないよう努めながら、さらなる向上を目指す。
-----------------------	--